

自己評価及び外部評価結果

[事業所概要(事業所記入)]

事業所番号	0172901548		
法人名	有限会社シャイニング		
事業所名	グループホームシャイニング フラワーユニット		
所在地	旭川市永山1条11丁目2番39号		
自己評価作成日	平成25年5月31日	評価結果市町村受理日	平成25年7月2日

[事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)]

*アットホームな雰囲気作りに職員全員で取り組んでいる。
 *身体拘束廃止委員会が設置されており、「身体拘束のないケア」に向けて取り組んでいる。「身体拘束禁止の対象となる具体的行為」には入っていないこと(センサー設置など)についても、漫然と続くことのないように振り返り、職員間で注意しあっている。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0172901548-00&PrefCd=01&VersionCd=022

[評価機関概要(評価機関記入)]

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成25年6月18日

[外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)]

<身体拘束廃止への取り組み>
 個々の職員が身体拘束廃止について自己啓発し、学んだことをユニット会議や職員会議で発表する機会を設けて、身体拘束ゼロへの取り組みをしている。また、職員の段階毎の年間研修計画を作成し、薬の効能や組織運営、高齢者の現状など外部の専門家を招聘するなどしてスキルアップに努め、サービスの質の向上に取り組んでいる。

<ターミナルケアの実践>
 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から家族等と話し合い、事業所が出来ることを十分に説明しながら、チームでターミナルケアを実践している。また、その実践の為に内部研修の充実や職員間で方針の共有が行われている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果 フラワーユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいて職員を指導し、理解を深めている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念をつくりあげ、ユニット会議や職員会議で話し合い、その実践につなげている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くのコンビニへ行き、顔馴染みとなったり、近所の子供達が庭に遊びに来たりしているなど。	夏祭りを開催して、地元の人々に参加を呼びかけたり、「子育て支援」事業で地域の子供達との交流や専門学校生、高校生の実習の受け入れ等地域との連携や交流促進に取り組んでいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	代表者やケアマネージャーが、相談に来られる地域の方に対し、認知症への対応や介護サービス利用についての助言を行なうなど。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、利用者状況や行事・取組みの報告をしたり、地域の情報交換など行なっている。	2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、利用状況や行事案内、地域との関係など具体的に話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点等こまめに問い合わせたり、実地指導では取組み等について相談するなどして。また社内研修事業を通じて講座をお願いしたり、保健所の企画「健康応援企業」にも登録させていただいた。	市や包括支援センター主催の研修会参加や日常業務を通じて情報交換を行い、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	帰宅願望のある入居者様がいても、出来る限り施錠等せずに対応している。	個々の職員が身体拘束廃止について自己啓発し、学んだことをユニット会議や職員会議で発表する機会を設けて、身体拘束ゼロへの取り組みをしている。また、職員の段階毎の年間研修計画を作成し、薬の効能や組織運営、高齢者の現状など外部の専門家を招聘するなどしてスキルアップに努めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会にて、虐待や不適切なケアについて学ぶ機会がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議の中で学ぶ機会を作っている。実際に成年後見人制度を利用されていた方もおり、実践を通して学ぶ機会もあった。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	懇切丁寧を念頭に解りやすい説明を心掛けている。契約の段階から信頼関係の基礎を作れるよう努めている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの要望があれば、ユニットで話し合い取り組んだり、運営推進会議等で意見を頂く機会を設けている。	利用者一人ひとりの健康状態や生活の様子等を「たより」で家族に情報提供したり、「シャイニング新聞」を定期的に発行して、職員の紹介記事を掲載するなど家族とのコミュニケーションや広報に努めている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で、報告事項を簡潔に、検討事項に時間を割けるよう工夫し、職員の意見や提案をより反映できるよう取り組んでいる。	ユニット会議や職員会議等で職員の意見や要望、提案を聞く機会を設け、運営に反映できるように努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準は少しずつ上がってきており能力に対する評価も行なっている。環境を良くする努力を続けている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に積極的な参加を促し、スタッフの質の向上に努めている。内部研修も充実させていく。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者・ケアマネジャーは同業者との交流機会を持ち、サービス向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご要望・訴えに対しては傾聴し、対応している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	その都度ご要望や気になる点を挙げていただき、必要な対応をしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回の面接時などに、出来るだけ詳しい話を伺い、ニーズに応じた対応を心掛けている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者同士の関係も大切に見守り、適度な距離を保ちながら関わるように配慮している。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族がホームに泊まり、支援される機会が定期的にある。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	使い慣れた衣装筆筒、ラジオなど使用していただいているなど。	散歩や馴染みの店での買い物、知人や友人等の来訪支援、夏祭り等の行事参加で馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全員で行なうレクリエーションなどを取り入れ交流機会としたり、精神面で不調な方でも周囲から誤解を受けないよう配慮するなど。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前利用されていた方のご家族さまよりお手紙をいただき、職員皆で読ませていただいたことがありました。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを取ることで把握に努めている。	日常の会話や趣味への支援を通じて、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、本人本位に検討している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に詳しく書くことにより、個人の現状把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	こまめにユニット会議を開催し、課題とケアについて話合っている。介護計画書については、ご家族の意見をより一層汲み取れるような工夫があればよい。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族の意見や要望、サービス担当者会議で職員の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に記入し、活用している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護記録、ユニット会議を通して、状態の変化に伴うニーズの変化について話し合い、その都度支援を行なっている。ご家族希望にてご本人が携帯電話使用し、使い方の相談に応じるなど。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の公園に行ったり、男山酒造へ行ってお花見をして楽しむなど。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際にご希望等伺い、各状況に応じた対応をしている。かかりつけ医ときめ細やかな情報交換を行ない連携を密にしている。	協力医療機関との連携や往診、通院への支援で適切な医療を受けられるように支援している。また、受診は、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員へ情報や気づきを伝え、必要な相談をしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は、速やかに情報提供書等作成し入院先にお渡ししている。不明な点等は電話でもお問い合わせが出来るよう依頼し、退院後の生活にも万全な体制を保てるよう必要に応じて相談するなどしている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医・ご家族と早い段階から話し合いを行っている。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から家族等と話し合い、事業所が出来ることを十分に説明しながら、チームでターミナルケアを実践している。また、その実践の為に内部研修の充実や職員間で方針の共有が行われている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成し、定期的に確認している。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を行ない、避難経路や通報装置、消火器の使い方などを確認している。	スプリンクラーや火災報知器、通報装置等の設備を完備し、定期点検も実施している。また、年2回の避難訓練の実施や夜間を想定した訓練も実施している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不適切な名前の呼び方、言葉かけにならないよう職員間で注意あっている。	誇りやプライバシーを損ねることがないように、内部研修会や職員会議で話し合い、職員間で共有している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員間で統一した声掛けが出来るよう、対応している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の体調や、天気の良い日など、状況に応じて声掛けし散歩に出るなどしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	6週毎のペースで訪問理容に来てもらい、自立度に応じて仕上がりをご自身で決めていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	検食委員会を通して入居者の好みや状態に合った食事提供が出来るよう、話合う機会を持っている。またその方の自立度に応じて準備や片付けも参加いただくなど。	一人ひとりの好みや力を活かしながら、給食委員会で検討し、献立づくりや食事の準備、あと片付けなど職員と一緒にやっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や1日の水分量を計算して、その方に必要な栄養についてかかりつけ医と相談いあい対応している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来るところまではご自身で行なっていただくよう促し、必要に応じて仕上げ等介助を行っている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要に応じて排泄のアセスメントを行ない、自立についての検討を行なうなどしている。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量等、その方に合った工夫をし、予防に取り組んでいる。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本のパターンはあるが、ご本人の希望に沿って時間や日にちを合せている。	週2回を目安に一人ひとりの希望やタイミングに応じて入浴支援をしている。また、ユニット毎に違う浴槽の大きさを活かした支援をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝るまでテレビをつけておきたい、一人で眠れずホールでお昼寝する、など一人一人に合わせて対応している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬セット、確認作業、服薬介助等すべてダブルチェックをして取り組んでいる。出来るところはご自身でやっていただき見守るなど、行なっている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方にあつた役割を見つけ、支援するなど。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食や買い物は予定を組んで対応し、コンサートなどはご家族の協力のもと、支援している。	外食や花見、男山酒造り資料館や永山新川の野鳥観察など普段では出かけられないような場所への年間行事を計画し、実践している。また、東屋や庭木、畑が作られ外気浴を楽しんだり、散歩、買い物等戸外に出かけられるように支援している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の付添いでも、出来るところまではご自身でやっていただくように支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人のご希望があれば、お手伝いしてやり取りができるようにしている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	わかりやすいようにトイレの表示を大きくしたり、季節に合った飾り付けや貼り絵、写真などで季節を感じられるようにしている。	リビングには、椅子やソファが配置されたり、行事参加の写真や季節毎の飾りつけが行われ、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。また、共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった入居者同士で、自由にお部屋を歩き来して過ごされている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好きな歌手のポスターを貼ったり、安全面も考えながらご家族と相談し工夫をしている。ご本人と相談し模様替えも行っている。	居室には、使い慣れた家具や仏壇等が持ち込まれたり、好みの写真やポスターが掲示されて本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その日のメニュー表を大きく貼り出し、楽しみを持っていただいたり、手すりを利用して出来るだけ自立して過ごせるよう支援している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901548		
法人名	有限会社シャイニング		
事業所名	グループホームシャイニング フルーツユニット		
所在地	旭川市永山1条11丁目2番39号		
自己評価作成日	平成25年5月31日	評価結果市町村受理日	平成25年7月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>*「身体拘束のないケア」を目指し、取り組んでいます。 *水曜日の午後などにレクリエーションのための時間を設け、楽しいひとときを演出。 *昼食前には嚙下体操を、楽しみながら行なっています。</p>
--

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0172901548-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成25年6月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果 フルーツユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	実践で課題が見つかった時など、理念に基づいて指導し、理解を深めている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事を通して近所の方との交流があり、庭には近所の子供が遊びに来ている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	代表者やケアマネージャーが、相談に来られる地域の方に対し、認知症への対応や介護サービス利用についての助言を行なうなど。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、利用者状況や行事・取組みの報告をしたり、地域の情報交換など行なっている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点等こまめに問い合わせたり、実地指導では取組み等について相談するなどして。また社内研修事業を通じて講座をお願いしたり、保健所の企画「健康応援企業」にも登録させていただいた。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を作り、毎月身体拘束廃止に向けて取組み、そのために学ぶ場も作っている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のユニットカンファレンスや職員会議で検討する機会を持ち取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、成年後見人制度を利用して入居者もあり、職員会議を通じて学ぶ機会を作っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	懇切丁寧を念頭に解りやすい説明を心掛けている。契約の段階から信頼関係の基礎を作れるよう努めている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に一度、運営推進会議を開いており、ご家族様の意見を聞く場がある。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で、報告事項を簡潔に、検討事項に時間を割けるよう工夫し、職員の意見や提案をより反映できるよう取り組んでいる。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準は少しずつ上がってきており能力に対する評価も行なっている。環境を良くする努力を続けている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に積極的な参加を促し、スタッフの質の向上に努めている。内部研修も充実させていく。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者・ケアマネージャーは同業者との交流機会を持ち、サービス向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前・利用する時と、ご本人とよく話し、アセスメントをしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人だけでなくご家族の話もよく訊いて関係づくりを行なっている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回の面接時などに、出来るだけ詳しい話を伺い、ニーズに応じた対応を心掛けている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が主となる機会をさりげなく作れるよう取り組んでいる。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外泊時は連絡ノートを使用し、最近のご様子を記録。口頭でもご家族と職員間で連絡お行なうなどしている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新築、リフォームしたご家族の家を車で見に行ったりなど行なっている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居の際に他の方となじめるよう紹介したり、間に入って支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	身寄りのいらっしゃる利用者が入院～退居された際は、入院先の医療機関や成年後見人とも連絡を取りあい、必要な手続き等の支援を行なった。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スケジュール通りではなくご本人の意向をきいて、入浴日を変えたり、外食の支援など取り組んでいる。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の前から出来る限りアセスメントをし、把握。その後もセンター方式を利用し把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のユニットカンファレンスで振り返り、把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を行ないご本人からも今のサービスを利用してどうかお話を聴き、職員会議でも検討しながら現状に合ったケアプランを作成。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アセスメントシート、カンファレンスノートを使用し情報を共有。必要あれば尿量チェックシートや血圧手帳も使用し工夫している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	環境の変化によるリスク・ダメージにも十分配慮しながら、ご家族の強い想いに応えて一時帰宅の支援を行なった。現在その方は一時帰宅も定例化となっている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの男山酒造に行きお花見をしたり、永山新川へ白鳥を見に行く機会を持てるよう支援している。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際にご希望等伺い、各状況に応じた対応をしている。かかりつけ医ときめ細やかな情報交換を行ない連携を密にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、看護師が勤務しており、1週間の様子を報告・相談し、指示をもらいケアに活かしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は、速やかに情報提供書等作成し入院先にお渡ししている。不明な点等は電話でもお問い合わせが出来るよう依頼し、退院後の生活にも万全な体制を保てるよう必要に応じて相談するなどしている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医と連携しながら、終末期に向けて看取りも視野に入れご家族と話し合い、ケアプランにも盛り込んで対応している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成し、定期的に確認している。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、避難訓練を行ない、避難経路や消火器の使い方など確認している。また運営推進会議では災害時の地域協力について話合などしている。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「目上の方」に対しての言葉遣いを意識し、職員間でも注意しあっている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動前声掛けで同意を得ている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課についても、必ずしも時間通りでなくて良いこと、ご本人にお伝えするなどしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え時の服選びや、整髪料を使用し髪型セットの支援など行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「本日の献立」を入居者の方に解るようにホワイトボードにて掲示したり、検食委員会を設置し入居者の好みや状態に合った食事提供が出来るよう、話合う機会がある。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状況に応じてジュースやゼリーなど用いて、水分量を確保している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯ブラシや口腔ケアスポンジなど各人により使用し、口腔ケアを行なっている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中だけでもポータブルトイレに座ってもらうなど、状態低下しないよう工夫している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の水分量を、毎日チェック・集計し、一定量を保つよう工夫している。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご希望の時間を指定される方は、出来る限りそれに沿って入っていただいている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	普段行なっていたりしている役割なども、状況によっては休んでいただいたりしている。また入居者の好みにより、枕の高さを変えるなど。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬のセットチェック、服薬時のチェック表を使用し把握に努めている。血圧薬管理は、医師の指示のもと変動に応じて調整するなどしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	男性入居者にも、食器やお盆拭きなど行なっていたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>通院の機会に買い物を組み合わせるなど工夫しながら、外出支援を行なっている。</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご本人管理用のお小遣いを用意し、買い物の際に使えるよう支援するなど。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>入居者のご希望があれば、ダイヤルや取り次ぎの支援をしている。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>戸締まりを気にされる方や、照明を気にされる方がおり、ご希望を損なわないよう配慮して対応している。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>入居者が過ごしやすいよう、長いす(ソファ)の配置を変えてみたり工夫している。男性入居者が好んで利用されている。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>デジタルフォトフレームを置いてご家族の写真を楽しまれている方や、枕元にラジオを置いて好きなように操作されている方などいらしゃる。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>出来ることを「役割」として行なっていただいている。</p>		

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	11	毎月の職員会議にて、これまで報告事項に割く時間が多かったが、職員間での「話し合い」も徐々に活発になってきており、話し合いを通じて課題解決出来るよう環境を整える必要性が増している。	職員会議にて、より一層職員の意見や提案を運営に反映出来るよう環境を整える。	会議の場において、検討事項や事例の相談などに出来るだけ時間を割き、職員やリーダー、主任とも相談しながら意見を出しやすい雰囲気作りを行なう。	1年
2	33	平成24年6月と平成25年4月に、各ユニットにて看取りを経験し、それに伴って職員のスキルやチーム内連携も向上してきている。	看取りに対して前向きな体制を作る。	ご本人、ご家族のご要望を全体で把握し、早い段階から看取りに向けての話し合いをしてゆく。	1年
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。